

直島コメづくりプロジェクト 2009

報告書

プロジェクトについて

「直島コメづくりプロジェクト」は香川県・直島町積浦地区に広がる休耕田・積浦田園を舞台としたアートプロジェクトです。1970年代より途絶えてしまった直島のコメづくりを2006年に行われた「NAOSHIMA STANDARD 2」という展覧会の関連企画として復活させました。コメづくりは作品そのものではありません。しかし、コメをつくることを通して現在と向き合うことは、本質的には創造行為につながることでありと考えています。「直島コメづくりプロジェクト」は、田んぼという場、コメづくりという行為を再び生活と集落の中に取り入れることを目指しています。

直島コメづくりプロジェクト 2009

期間：2009年4月～2010年3月

場所：香川県直島町積浦

面積：水田 5.2 反=5,200 m²（積浦田園 42 反=42,000 m²）

米の種類：ヒノヒカリ（うるち米）、モチミノリ（もち米）

主催：株式会社ベネッセホールディングス、財団法人 直島福武美術館財団

方針

地域の文化や歴史をコメづくりを通じてほりおこす
休耕田を田んぼに再生し直島の風景の一部となる
農と食をテーマに人とつながる

実行項目

コメの生産と販売：5.2 反の田んぼで今年はコメをつくります

その他の作物づくり：柿やみかんづくりも今年から挑戦しています

コメの体験：老若男女とわず農作業体験ができる年間5回のイベントを行います

アートとコメの収穫祭：アートと地域と食がつながる年に一度の地域の祝祭です

その他の取り組み：地域のお祭りに参加することも大切な活動ととらえています

コメの生産と販売

2006年にスタートした直島コメづくりプロジェクトは2009年で4年をむかえた。
今年も積浦田園に広がる休耕田を開墾し、田んぼの面積の拡大を行った。

3反（2006年、2007年） → 4.5反（2008年） → 5.2反（2009年）

昨年からはじめたコメの販売は、好評のうちにすべて売り終えた。今年は5kgではなく1kgのパッケージをつくり、お土産として持ち帰りも出来るサイズにして販売を行うこととなった。

スタッフは新たに2名のスタッフが参加し、指導者として昨年に続き直島で代々コメをつかってきた西岡さんに関わっていただいた。

期間：2009年4月～2009年11月

場所：香川県直島町積浦

面積：水田5.2反=5,200㎡（積浦田園42反=42,000㎡）

米の種類：ヒノヒカリ（うるち米）、モチミノリ（もち米）

カレンダー

月	出来事
4月	田んぼの面積の拡大！ 2008年の4.5反から、0.7反増やし、今年は5.2反になります
5月	育苗開始（5月20日）
6月	田植え開始（6月17日）
7月	除草剤散布（7月1日）
8月	穂が出はじめました（8月27日）
9月	殺虫剤散布（9月16日）
10月	稲刈り開始（10月7日）
11月	今年のコメづくりの全行程が終了（11月19日） 12月～3月は来年に向けての準備とコメの販売や管理をしています

レポート（プロジェクト通信より）

5月20日 | 苗づくり

「直島コメづくりプロジェクト 2009」のスタッフ、廣田と申します。

さて、今日積浦田園では育苗作業が行われました。前日、薬に漬けておいた種子もみをザルにあげ、藤井さん、末宗さん、そして新人スタッフの皆さん達と一緒に育苗箱に培土を入れ、西岡さんのホロホロ〜という歌声に乗りながら、その上に種子もみをほろほろ〜と入れ、さらにその上から培土を入れ、育苗箱を作ります。

次にそれを並べて、シートを被せ、1、2週間そのまましておきます。あいにく雨の中での作業となりましたが、昨年と比べ9人という大人数だった事もあり、作業も順調に終わりました。かわいい苗が出来るまでにはあと1ヶ月ほどかかるようです。また元気に成長した苗の姿をお届けできるよう頑張りますので、引き続きご愛読の程、よろしくお願い致します。



6月18日 | 田植え

コメづくりスタッフの松本です。

今日は、コメづくりの要ともいえる大仕事「田植え」が行われました。毎日水を遣ってかわいがってきた苗をついに植える時が来たということで、私含めスタッフ全員気合いを入れて作業を進めて行きます。

まずは前日から水を充分に入れた田んぼに田植機を入れ、コメづくり指導者の西岡さんのご指導のもと田植機を操り、苗を植えていきます。写真で見ると簡単そうに見える田植機の操作ですが、これがまた難しく、まっすぐ進まなくてはいけないのに右へふ〜らふら、左へふ〜らふらと曲がってしまいます。田植機の横にはオレンジ色のガイドと呼ばれるものが着いており、それを横に植えた苗に合わせることで等間隔に植えることができるのです。手塩にかけて育てた苗なので、できるだけ丁寧に正確に植えていきたいものです。本日の作業は朝から非常に充実したもので、田植え予定の田んぼの半分以上を終えることができました。また明日も田植え作業は続き、そして、今週日曜に行われるイベント「田植祭」に向けて、油断せず慎重に作業を進めたいものです。



8月27日 | 穂がではじめました

こんにちはコメづくりスタッフの廣田です。

早いところでは既に新米の収穫が始まり、様々な地域で稲穂が出ている頃でしょうか？ 積浦田園ではもち米にたくさんの穂が見られるようになりました。農道や車窓からの田園風景にも以前から親しみがありませんが、イネのカブから穂が出る様子をまじまじと見るのは初めてでとても不思議な光景です！カブの中心で作られた穂は、まわりを葉のさやでつまれたままで大きくなり、やがて外に出て来ます。一見、真っ直ぐ上に伸びているかのように思えますが、実は回転しながら伸びています。その他の植物も同様に回転しながら成長している様です。自然界の小さな変化、知識に乏しい私はいち早く西岡さんに「イネのおなかが大きくなってわよー。」と声をかけていただきました。周辺に住む地元の方々には小さな変化によく気づかれ、声をかけてくださいます。季節や空気、天候と共に生活をしているような感覚、実際にその中で生活をするにしたがって我々の生活リズムにも少しずつ刻まれて行く気がします。



10月15日 | 収穫はまだまだつづきます

こんにちは、コメづくりスタッフの松本です。

今月から始まった稲刈り。イベントで皆さんに刈っていただいたものの、まだまだ先は長いです。刈り→くくり、束にし→干し→脱穀し→もみすりし、玄米になり、精米することによって、始めて良くスーパーマーケットなどで目にするあの「コメ」になるのです。現在の作業行程は「乾燥」。コメづくりの一大イベント稲刈りにおいて一番地味で、かつ一番重要な作業でしょう。脱穀を終え袋詰めされた籾をトラックに乗せ、乾燥機がセッティングされた納屋へと運びます。我々が使用している乾燥機は正式名称「平型静置式乾燥機」なんだかややこしい名前ですが金網の上に籾を乗せ、広げ、下から常温の空気を送り込み乾燥させるという構造のもので、次のもみすりの作業を行う為には籾の水分含有量を約16パーセントにもっていかなくてはならない為、必要な行程なのです。コメづくりって大胆で力のいる作業からだんだん細かく繊細な作業に収束していくように思います。今後も濃密なスケジュールのもと作業は進んでいきます。

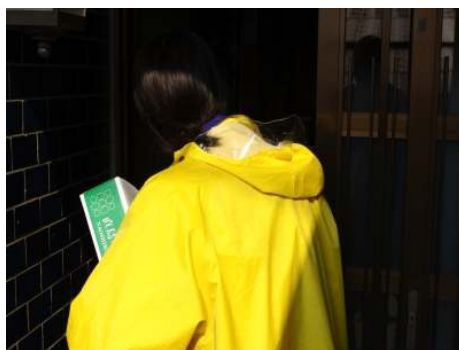


11月11日 | 地主の方にお米を食べていただく

こんにちは。コメづくりスタッフの松本です。

「今年のコメはおいしいね」と、様々な方からお声を頂きます。コメづくり一辺倒だった我々の仕事も、宣伝、販売に、直島米を知ってもらおう仕事にシフトチェンジして行くのです。まずはお世話になった身近な方に一番最初におコメを食べていただこうと、土地を借りている地主さんに挨拶もかねておコメを持っていきます。

コメづくりこそやめてしまったものの、自分の土地で何が行われているのか、当然地主さんも知りたい、私たちも知ってもらいたいということもあり、一番良い方法は言葉よりもできたおコメを食べてもらうこと。味以外にも何か感じてもらえたのではないかと信じています。中でも土地をお借りしている濱崎さん、来年は柿畑もお預かりすることになるので「よろしくお願いします」と顔を覚えておいてもらいます。柿畑のことからご本人の近況まで、お話好きな濱崎さんからいろいろなお話を聞く事ができました。またお話を聞きに伺いますね。



11月19日 | 直島米好評販売中

事務局スタッフの高山です。

2009年のコメづくりを全行程終えました。今年収穫したお米は合計2,570kgでした。これは1反(1,000㎡)あたり約500kgの収穫量となります。この4年間のなかで一番の収穫量で、お米も美味しく4年目のコメづくりは大成功だったのではないかと思います。そのお米＝直島米ですが、ぜひ多くの方々にご賞味いただきたく思っています。購入は直島限定になりますが、フェリーが発着する宮の浦地区の「海の駅」、家プロジェクトが公開されている本村地区の「本村ラウンジ&アーカイブ」で購入可能です。直島米は、すでにご存じの方もいらっしゃいますが、かつての田んぼ＝休耕田を開拓した田んぼで栽培しています。土質は改良に改良を重ね、直島で代々続く低農薬の農法で栽培しています。こだわられる範囲のものはこだわるように心掛け、海の駅や本村ラウンジ&アーカイブへの納品も、毎回精米をし少量納品をしています。少しずつ米屋さんや農家の方のように、自分達をつくるお米に自信や愛情などの気持ちが芽生えてきたように思います。



収穫結果

今年は過去最高の記録となった。1反あたりの収穫量も494kgと昨年の377kgをこえ、作業の「コツ」がつかめ効率が良くなり、田んぼの土質が良くなっていることがわかった。

収穫年	うるち米	もち米	合計	面積	品種
2009年	2,430kg	140kg	2,570kg	5.2反(5,200㎡)	うるち米：ヒノヒカリ もち米：モチミノリ
2008年	1,450kg	250kg	1,700kg	4.5反(4,500㎡)	うるち米：ヒノヒカリ もち米：モチミノリ

食味検査結果

食味検査結果も過去最高の記録となり、毎年コメの品質が良くなってきている。特に香りにおいては、基準米より高評価を得ることができた。

検査方法：専門パネル20名により、炊飯した供試米について、5項目（外観、香り、味、粘り、硬さ）と総合評価を比較評価する相対法。

供試料	総合評価			外観	香り	味	粘り	硬さ
	評価値	信頼区間	有意差					
2009年 ヒノヒカリ	-0.450	±0.306	—	0.000	0.100	-0.300	-0.050	0.400
2008年 ヒノヒカリ	-0.500	±0.237	—	0.000	-0.150	-0.400	-0.200	0.150

※基準米平成21年産（複数産地コシヒカリのブレンド）基準米の数値は、±0として評価

※信頼区間とは、基準米より+0.306以上のお米ではなく、-0.306以下のお米でもない、その範囲数値内のお米という評価

※有意差とは、基準米と比べて、プラスのお米かマイナスのお米か、という評価

販売

2008年よりコメを「直島米」として販売を開始した。昨年は5kgのパッケージだったが、今年よりお土産用として1kgのパッケージに変更をした。

品種：ヒノヒカリ、モチミノリ

数量：1kg

価格：500円

販売場所：海の駅直島、本村ラウンジ&アーカイブ
(いずれも直島島内)



その他の作物づくり

柿づくり

田んぼの地主の濱崎さんの柿畑には、甘柿と渋柿が約2反ほど植えられています。今年から草刈や肥料まき、その他の管理方法を教えてもらい、2009年11月に収穫を迎えました。今回は実がなるのが少なかったようで、できた柿は濱崎さんやその他の田んぼの地主の方にお渡ししましたが、来年はもっと多くの方に食べていただこうと思っています。



ポイント！

甘柿と渋柿を見分ける方法。葉が実に密着しているのが甘柿。密着していないのが渋柿。

はっさくとなつみかんづくり

田んぼの地主の西岡さんは、はっさくとなつみかんを植えています。柿と同様に今年から直島コメづくりプロジェクトで管理をすることになりました。

2010年2月に収穫期を迎えたはっさくは120個収穫することができました。収穫したはっさくは島内・島外の方にご賞味いただきました。なつみかんの収穫は2010年4月頃です。



コメの体験

直島コメづくりプロジェクトでは、年間 5 回の作業体験と食事会にご参加いただけるプログラムを行っている。このプログラムは農作業未経験の方や、小・中学生の方も参加でき「コメの体験」を通じて地域や自然の大切さを知り、食事会では地元の旬の野菜や果実と直島米を用いた食事を取り、明るく楽しい農作業を体験いただいている。

昨年より家族で参加する方々が増え、はじめて参加する子供たちも、田んぼの生き物に関心をもったり、広い田んぼを駆けまわったり、はつらつとした顔を見せている。毎回参加している子供たちは、前にくらべて集中力や自然に対する関心や理解が増していたり、この 4 年間のわれわれの活動と子供たちの成長が重なったうれしい場面があった。

第 1 回 6 月 18 日 | 田植祭 : 150 名

第 2 回 7 月 21 日 | 草取り作業 : 50 名

第 3 回 9 月 7 日 | 案山子づくり : 60 名

第 4 回 10 月 12 日 | 稲刈り : 130 名

第 5 回 12 月 10 日 | おもちつき : 80 名

レポート（プロジェクト通信より）

第 1 回 6 月 18 日 | 田植祭

事務局スタッフの藤井です。今年で 4 回目となる田植えは約 150 名の方が参加しました。

（昨年と同様、過去最高）開会式のあとは田んぼへ移動し、昨年開墾した田んぼと今年新たに開墾した田んぼで田植えを行いました。おコメの苗の植え方は、グループ別に農業委員会のみなさんを中心に取り仕切っていただき、初心者の方々はその指導を受けながら田植えを行いました。田植えは 1 時間かけて、約 2.2 反の敷地にすべて苗を手植えで行い、作業中に天候が崩れ、雨が降ってきましたが、参加者は少々の雨にもまげずに作業を行いました。今回初めて親子でご参加された方に田植え参加の動機を伺ったところ、そのお母さん曰く、「私は幼い頃から決して丈夫な体ではなかったからいろんな面で苦労した。娘には田植え作業を通じていろんな事を学んでもらい、今のうちから体力をつけてもらいたい」という切なる思いを語っていただきました。150 人が一丸となって植えた田んぼは、規則正しく苗が整列し、美しく実に見事な田んぼが出来上がりました。



第2回 7月21日 | 草取り作業

コメづくりスタッフの松本です。約 50 名の参加者と共に、コメの体験「草取り作業」が行われました。作業は大人チームを A チーム、親子チームを B チームに分かれてもらい、それぞれ 1 時間程度草取り作業を行ってもらうというものでした。大人チームはなんと 1 時間という限られた時間のなかで予定していた一番雑草の育ちが激しかった南側の端の田んぼの草取りを、猛烈な勢いですべてこなし、我々の予想を超える作業をしていただきました。親子チームの子供たちには、草取りという大変な作業にも関わらず集中して作業を行い、途中田んぼの中に住む様々な生き物とふれあいを楽しんでいただけたように思います。田んぼは中心と端の高低差があり、端が高く、中心に行くにつれて地面が深くなっています。ヒエやその他の雑草は水中では呼吸ができず枯れてしまうので、浅い端に多く雑草がはえています。子供たちには、そういった自然のルールを作業を通じて五感で感じ学んでいただけたのではないのでしょうか。このイベントが子供達の夏の思い出の一つになればと期待しています。



第3回 9月7日 | 案山子づくり

事務局スタッフの藤井です。約 60 名の参加者と共に、第 3 回コメの体験「案山子づくり」が行われました。昨年に続いて 2 回目となる案山子づくりは、前回よりもいろんな意味で、よりパワーアップされたものでなくては！ということで前回のおよそ 3 倍に値する、10 体もの案山子を作りました。午前 10 時、スタッフからの開会のあいさつでスタートし、その後、それぞれグループに分かれていただき、スタッフが 1 行程ずつ参加者のみなさんに説明しながら作業を行います。用意した服に予め骨組みされた竹を通し、その中に昨年度に収穫した藁を入れ、手や顔を作っていきます。作業中は各グループごとにみなさん協力し合い、役割分担し、大人と子供が試行錯誤しながら楽しく案山子を作られており、われわれスタッフがまさに理想として思い描いていた情景でした。この積浦田園が今回参加していただいた方々や島民の方にとって、いつも近い存在であり、思わず案山子の様子を見に行きたくなるような、そんなかけがえのない場所になればいいなあ、と思うのでした。



第4回 10月12日 | 稲刈り

事務局スタッフの藤井です。今回は祝日という貴重なお時間のなか、約130名の参加者にお集まりいただきました。作業工程は①稲刈り、②刈った稲を運ぶ、③刈った稲を3〜4株ずつにまとめ、藁で束ねる、この3工程をグループ別に分かれて行いました。

きちんと上手く回していけるかどうか、少々不安もありましたが、その不安を跳ね返す、まるでリレーのバトンを渡すような、見事なチームプレーで、まさに体育の日にふさわしい、大人も子供も最後まで夢中になれた作業であったと思います。また作業後、余った時間を使い子供達を対象に、脱穀機を使った脱穀作業を体験していただきました。みんな今まで触れたことの無い機械に興味津々で、力不足ながら私がひとりひとり手取り足取りレクチャーさせていただきました。こちらでも子供達の行列ができ、大変好評でした。コメの体験では、うれしいことに大人も子供もリピーターが多く、昨年からずっと参加してくれている子供達は、稲刈りも大人顔負けの刈り揃いで、こうやって徐々に農作業に親しみを持ってきているんだなぁと実感しました。



第5回 12月10日 | おもちつき

事務局スタッフの藤井です。約80名の参加者の方々と一緒に今年収穫したもち米を使いもちつきを行いました。参加者数が多いため、グループ別に分かれてもちつきを行いました。最初に力のある大人がおもちをついて、ある程度まで仕上げた後、子供達につかせてあげるグループや、子供達だけで最初から最後まで仕上げるグループがあったり、各グループによって個性豊かなおもちに仕上がりました。みんなで切り分け、丸めたおもちは、きなこ、あんこ(粒あん、紫イモあん)、ぜんざい、おろし大根、砂糖醤油、磯辺風、直島海苔のつくだになど、お好みの具材を選び、おもちと一緒に食べていただきました。今回は直島でよく食べられている美味しい食べ方として、いろいろな味が楽しめるよう具材を用意しました。

みなさん自分がついたおもちとあってか、最低でも2〜3個、多い人では6〜7個も食べる人がいらっしたりと、大人も子供もみんなが一連の作業を通して充実感、達成感を持っていただけたようで、今年を締めくくる上でとても感慨深いイベントであったように思います。



直島の「食」（コメの体験の食事会）

直島積浦地区のご婦人が中心になった積浦フラワーグループさんと直島コメづくりプロジェクトが共同で、コメの体験終了後に食事会を年間4回ひらきました。本来は、花づくりや花壇の整備など、積浦を花いっぱいにする活動を行われていらっしゃいますが、積浦や直島の季節の食材を使った「お母さんの味」をフラワーグループさんに提供いただきました。（白米はもちろん直島米です）

夏野菜のカレーライス

玉ねぎ、ニンジン、ジャガイモなど積浦地区の畑でとれた野菜をふんだんに使ったカレーライス。サラダに使われた野菜も直島産でした。

（第1回 6月18日 | 田植祭）



豊島産そうめん定食

小豆島のそうめんは有名ですが、直島のお隣の豊島も素麺が有名です。野菜と一緒にぶっかけそうめんとして提供いただきました。とれたてのスイカもとても甘くておいしかった～。

（第2回 7月21日 | 草取り）



直島米のおはぎ

黒あんと、うぐいすあんも手作りのおはぎをつくっていただきました。寒天ゼリーは近くの浜でとれた天草でできています。

（第3回 9月7日 | 案山子づくり）



ばらずし

むかしから晴れの日のお食べ物として有名な「ばらずし」。アナゴや海老など瀬戸内の鮮魚がいっぱいでした。（第4回 10月12日 | 稲刈り）



アートとコメの収穫祭

アートとコメの収穫祭は、毎年秋の収穫時、直島（香川県）で開催される「アートと食と地域」が会うお祭りです。収穫祭を通じて、地域独自の文化と外部の文化が会い、そして瀬戸内という広域的な範囲において人や物の流れを生み、この地域から新しい価値を生み出すことを目指しています。

日時：2009年10月31日（土）、11月1日（日）10:00～16:30

場所：香川県直島町積浦地区特設会場

入場：無料（一部500円の共通チケットが必要・直島島民300円）

無料イベント 「アートと食のマーケット」、「キックオフ・イベント記念トーク」

有料イベント 「新米を食べよう！」、「田んぼの演奏会」、「grafワークショップ」

関連イベント 「直島米のプレゼント」、「直島島内のカフェで直島米が提供されます！」

主催：株式会社ベネッセホールディングス、財団法人 直島福武美術館財団

共催：瀬戸内国際芸術祭実行委員会

後援：香川県、直島町、高松市、土庄町、小豆島町、岡山市、玉野市

会場（直島町積浦地区）



レポート（プロジェクト通信より）

アートと食のマーケット

アート作品の展示やアートイベントの紹介、雑貨やアクセサリや木工作品の販売、そしてパフォーマンス、農作物、加工品の販売、カフェの出店などこれまで以上に多種多様なお店が集まりました。

（10月31日 10:00～16:30※11月1日も同じく）



graf ワークショップ

大阪で活動する graf さんによるワークショップ。モノづくりの楽しさを伝える、匙づくりの教室が開きました。匙をつかった後には、つくった匙で直島米パエリアを食べることができました。

（10月31日 10:00～16:30※11月1日も同じく）



キックオフ・イベント記念トーク

2010年開催の瀬戸内国際芸術祭について、総合ディレクターの北川フラムさんに説明いただきました。地域をあげて過疎や高齢化の進む瀬戸内を盛り上げよう！と熱いメッセージが伝わりました。

（10月31日 11:30～12:30）



新米を食べよう！

コメの体験でおなじみの積浦フラワーグループによる新米の食事会。直島名物のハマチを照り焼きにし秋野菜の天ぷらなど秋の実りがたっぷりなメニューは大好評でわずか15分たらずで完売でした。

（10月31日 12:30～15:00※11月1日も同じく）



田んぼの演奏会

直島つつじ太鼓さんと田場恵美子さんによる演奏会。竹や稲藁も楽器となって、太鼓と一緒にリズムをかなで、田んぼ一体に音と笑顔が広がりました。

（11月1日 15:00～16:00）



結果

2009年10月31日、11月1日の2日間にわたって直島積浦地区の特設会場で「アートとコメの収穫祭」が開かれました。今回は、「ふれる」という言葉を全体のキーワードにし、見るだけではなく一歩足を踏み込んで、「直島＝固有性」、「瀬戸内＝地域」、「秋＝季節」にふれる様々なイベントが行われました。匙づくりや田んぼの演奏会、記念トーク、食事会などのイベントに参加したり、好きなお土産を購入したりと、普段は静かな漁港と里山の積浦地区が大いに賑わった2日間でした。

数字結果

来場者数：1,500人（2日間合計）

アートと食のマーケット：900人（2日間合計）

キックオフ・イベント記念トーク：120人

新米を食べよう！：1日目200人、2日目150人

田んぼ演奏会：130人

grafワークショップ：60人（2日間合計）

メディア露出件数：16件

直島米1年分を獲得したのは？

アートと食のマーケットでは、会場に訪れた来場者が気に入ったお店を投票し、一番人気のあるお店を選ぶ「ベスト出店者賞」を行いました。ベスト出店者賞は、来場者の人気が一番あったという名誉だけではなく、直島米1年間分がプレゼントされます。

（今の日本人のコメの1年間の消費量は年間60kgです。）

今回見事「ベスト出店者賞」に選ばれたのは、みかんやレモンそしてその加工品などを出店した豊島観光協会さんです。豊島は直島のお隣で、水が豊富で自給自足もできるほど肥沃な大地に恵まれた豊かな島です。そこで育まれたみかんやレモンは格別な味がし、来場した多くの方の人気を集めました。おめでとうございます！！



その他の取り組み

廃食器の回収と再利用活動をしています

コメの体験の食事会や、アートとコメの収穫祭の新米を食べよう！など、直島コメづくりプロジェクトでは「食」のイベントを多く行っていますが、食事につかうお茶碗やお椀などの器はすべて直島島内で使わなくなったものを使用しています。年間30kgのごみの排出をとめ（使い捨て容器をつかった場合）、同時に使わない食器を回収し利用することでゴミになることも防いでいます。



景観の美化活動も参加しています

直島コメづくりプロジェクトが活動する積浦田園では、「エコアイランドなおしま推進委員会」さんが2反のひまわり畑をつくられています。今年で3年目となるこの活動では、毎年春にイベントとしてひまわりの種まきを行っています。コメづくりプロジェクトのスタッフや直島福武美術館財団の新入社員も参加し島の景観の美化活動に協力しています。



秋祭のお神輿の担ぎ手もしています

毎年10月に開催される積浦地区の秋祭り。積浦の氏神様の天皇神社のお祭りです。華やかに着飾った子供たちによる太鼓の演奏がお神輿の上で行われ、男たちはお神輿を担ぎ、積浦の路地を練り歩きます。最近ではお神輿の担ぎ手が少なくなってきておりコメづくりプロジェクトのスタッフは総出でこの担ぎ手の役をになっています。地域の人との交流や風習や文化に触れる良い機会です。



スタッフ紹介

メインスタッフ

廣田菜美

わたしは 2006 年の秋より地中美術館のスタッフとして直島に参りました。コメづくりプロジェクトについてはその秋、達成感に溢れた先輩方の姿を見て、その存在を知らされました。これまでは眺めるばかりでしたが、今年度より地中の中から地上に出て、このプロジェクトを支える一人となりました。

プロフィール

年齢／現在 25 歳

血液型／ AB 型

星座／てんびん座（収穫の秋生まれ！）

趣味／歩く、本を読む、美術鑑賞、献血、珈琲を飲む

出身地／京都府

おコメとは／幸福感をもたらすもの。



松本良太

わたしは今年の 4 月から地中美術館の運営スタッフに新卒として入社し、2 ヶ月間働いた後、6 月 17 日（私の誕生日！）より縁あってコメづくりスタッフとして働く事になりました。コメづくりに関しては入社直後の説明会で初めて「こんな活動があるのか」という事を知り、興味を持ちました。ただ、まさか自分が働く事になるとは・・・、驚きと嬉しさで日々オロオロしています。

プロフィール

年齢／23 歳です

血液型／AB 型

星座／AB 型で双子座です。くせ者です。

趣味／掘り出し物を探す事です。

出身地／奈良県 奈良市

特技／小技（地味です、とにかく沢山できます）

おコメとは／まごうことなき原点です。



サブスタッフ

2009年よりはじまった豊島「食プロジェクト」の棚田再生のスタッフ
農繁期やイベントの時に助っ人として参加

末宗佐登司

プロフィール

年齢／34歳

血液型／A型 Rho(D)+

星座／しし座

趣味／モータースポーツ・果樹園芸・魚釣り・サーフィン

出身地／奈良市 登美ヶ丘

特技／サーキット走行

おコメとは／われわれの祖先と共に大陸からやって来た。

やっぱりにっぽん人はおコメです。

作業服装／白つなぎ・麦藁帽子・長靴

前職／HONDA 鈴鹿製作所（エンジン・ボディ溶接）自動車製造

本田総一郎杯 エコノパワーレース 車両検査員



高橋英子

プロフィール

年齢／24歳

血液型／A型

星座／てんびん座

趣味／山登り、映画鑑賞（ホラー、オカルト系以外なら何でも）、読書、ソフトボール

出身地／大阪（南河内）

特技／レジュメ作り、バッティングセンター、顔マネ（ホンジャマカ石塚）

好きなもの（こと）／すすきが風にゆれるのをぼーとながめる、山の頂上で昼寝、マッコリ（韓国のお酒）、ラーメン



この他にもプロジェクトやイベントを推進する事務局スタッフが参加している。（巻末のスタッフ名を参照）なお、末宗、廣田は2009年12月末で退社。現在（2010年3月）は2人にかわる新しいスタッフが加わっている。

直島コメづくりプロジェクト 2009 総括

積浦田園はプロジェクトをはじめた 2006 年当時、活用する余地もない、誰も見向きもしない荒廃した場所だった。しかし休耕田を切り開き、そこで毎日われわれが作業を行っていると、田んぼができ、コメが実り、収穫することが出来るようになった。景観はすこしずつ回復しカエルやメダカが田んぼに戻ってきた。地域の人に関心をもつようになり、農作業の体験イベントを開催しだすと徐々に参加者が増えた。今では毎年欠かさず参加する親子連れの方もおり、子供とコミュニケーションが活発にできるということで参加されている。2006 年の翌年から直島で活動する団体の「エコアイランド直島推進委員会」が積浦田園にひまわり畑をつくりはじめた。現在では四季を感じることできる直島の風景の一部として田んぼとひまわり畑は定着するまでになった。

2008 年からはコメの品質もよくなり、直島米としてコメを販売しだした。今年からは直島町観光協会が塩づくりをはじめ塩の販売を開始した。アートとコメの収穫祭の食事会でも使ったこの塩は、海水をポンプでひきあげ天日干しによって製塩する。直島コメづくりプロジェクトと同様に、この土地に既にあるものをいかしながら、これまでにはない可能性をもった活動として島内外で認知しだしている。

直島コメづくりプロジェクトを 4 年続けることでわかってきたことがある。

いつからか日本では、コメづくりなどこれまでわれわれの生活の根幹となっていた事業が忘れられていった。田畑が忘れられると、われわれの生活がもっていた豊さも忘れられていった。コメづくりは自然の流れのなかで限られた資源と土地、その本来の力や潜在能力を最大限に生かす業である。同時に生命が無限ではなく有限であるということを感じさせてくれる。われわれにとって大切なことは、限られた資源と土地をよりよい形で次の時代に受け渡していくことだと思われる。

直島のとなりの豊島でも同じような取り組みがはじまっている。豊島の唐櫃（からと）地区にある耕作放棄地となった棚田（8.2ha）を再生するところみだ。「豊島食プロジェクト」と総称され、この活動は直島より多くの地域の方にも参加いただき、農家レストランの運営も行う計画で、豊島を農と食で復興しようというところみである。

直島のコメづくりプロジェクトも豊島の食プロジェクトもどちらも開始しだしたばかりのプロジェクトである。時間はかかるかもしれないが、荒廃してしまった場所を再生し、その土地の力を最大限ひきだし、そして受け継いでいける仕組みづくりを行うことが直近の課題である。

参考資料：この4年間の推移

休耕田から田んぼへ

直島コメづくりプロジェクトをはじめた2006年の積浦田園は雑木林が広がる休耕田だった。積浦田園は42反(4.2ha)の面積があり、われわれは休耕田を耕し、毎年少しずつ田んぼに再生している。この4年間で5.2反が田んぼとして復活した。2010年度はさらに3.6反の休耕田を耕し、合計8.8反を田んぼにする計画をたてている。

2006年：3反／休耕田39反

2007年：3反／休耕田39反

2008年：4.5反／休耕田37.8反

2009年：5.2反／休耕田36.5反

われわれ以外にも、2007年より「エコアイランド直島」によって積浦田園の2反にひまわりやコスモスが植えられ、こちらも少しずつ面積が広がってきている。



量と質

直島コメづくりプロジェクトを始めた当初(2006年)は、雑木林がうっそうとしており、このような状態の休耕田だと5年はコメはできないだろうと聞いていた。しかし、質は良くなかったもののコメは収穫をすることができた。3年目の2008年にはコメの質もよくなったことから、一般の人にも広く知っていただく「直島米」として販売を開始しました。2009年は量も質もこれまでで過去最高記録を得ることができた。

		2006	2007	2008	2009
コメの量	収穫量 (kg)	1,260	1,200	1,700	2,570
	面積 (反)	3	3	4.5	5.2
コメの質 (日本穀物協会 検定試験)	評価	-0.75	なし	-0.50	-0.45
	外観	-0.45	なし	0.00	0.00
	香り	-0.35	なし	-0.15	0.10
	味	-0.70	なし	-0.40	-0.30

参考資料：コメの体験 参加者一覧

逢阪晃子	岡市友利	下津翔聖	土井厚	半田昌之	三宅亮
逢阪昌明	岡田和子	下津伸浩	土居一仁	東本武夫	村瀬智活
逢阪昌弘	岡本徳広	下津柊翔	中里雄一	平田弘	森敏樹
浅野浩司	岡本初子	下津真沙美	中野善正	平野寛大	森岡伸子
芦田史郎	岡本美紅	下津美紗妃	中林征一	平野克弥	森上章子
芦田真喜夫	岡本美由紀	下津善久	中村政太郎	平野珠江	築瀬正雄
芦田真理	小野孝一	城戸ゆかり	西忠彦	平野祐子	藪内悦彦
芦田葉	小野文雄	真治誠	西岡貞則	広田恵美子	藪内翔大
荒木慶悟	甲斐正洋	杉山亜裕美	西岡幸子	広田まりか	藪内智子
石井靖輔	片山裕子	高畦康憲	西岡弘子	広田隆明	山上英一
池田千鶴子	加藤麻由	高木富恵	西岡蓮真	福家照美	山口衣恵
磯口進一	金光貞子	高田洋一	西村和雄	藤江達也	山口翔生
井手章栄	兼元悦子	高橋秀明	西村輝子	藤目佳緒理	山口大輝
稲見宣行	河上慎字	竹内裕美	西村早織	古谷秀次郎	山口剛
井上遥香	菊田修	武田大地	野志知葉	前田浩作	山口凌佑
井上良雄	北野政子	武田海斗	野田旭	増田敬一	山本園世
今田将也	倉橋真久	武田聖紀	野田敬統	増田那奈	山本大翔
今田美由紀	栞原裕介	武田美奈子	野田珠生	増田文香	山本保夫
今田朋生	小谷明	立和名慎一	野田有美	増田嶺	山本陽菜
今田亮太	小谷智子	立和名美保子	乗松晃希	松井裕紳	山本芽生
岩間晴子	小谷萌	立和名遼	乗松真也	松崎栄子	山本浩司
姥迫日出乃進	小谷桃子	多田祐子	乗松千穂	松崎大輝	山本治美
恵井君子	小林伊都美	田中章子	乗松典子	松崎清人	山本草太
大谷章人	小林海斗	田中正平	橋本謙伸	松崎健太	横山和裕
大林茂樹	小林観二	谷脇好軌	橋本心佑	松崎マチ子	吉岡妥威亜
大林満	小林澄子	谷脇望見	橋本美穂	松島俊雄	吉田茜
大山一郎	小林拓斗	谷脇琉斗	浜口里海	萬代治喜	吉田綾夏
大山慶悟	近藤共則	田村豊子	濱田孝夫	水野真理子	吉田桃
大山貴史	近藤慈栄	築山秀子	浜中満	三宅真生	吉田龍一
岡恵理子	近藤由紀	九十九繁	春名早苗	三宅美紀	蓬満二
岡佳範	逆瀬川貴司	手塚沙恵	春名康佑	三宅桃代	
岡孝子	逆瀬川美作江	手塚志歩	春名亮汰	宮原三郎	
岡珠希	佐藤今日子	手塚陽子	春名啓紀	三好澄子	
岡ちか子	作田宏	手塚光子	原田久子	三好達雄	

直島コメづくりプロジェクト 2009

メインスタッフ	廣田菜美 松本良太
サブスタッフ	末宗佐登司 高橋英子
事務局スタッフ	泉沙希 今井未来 岩渕朱里 大洞洋児 金光里恵 柴田亮 高山健太郎 幡本和歌子 藤井俊輔 水野欣司 三武万寿巳 中田夏子 中村晶子 横田裕子 山本洋士

直島コメづくりプロジェクト2009 報告書

2010 年3 月発行

本報告書編集担当：高山健太郎／財団法人 直島福武美術館財団

本報告書についてのお問い合わせ

〒761-3110 香川県香川郡直島町850

財団法人 直島福武美術館財団

TEL：087-892-2550

FAX：087-892-4466

www.komezukuri-project.com

